

『非文字資料研究』（旧『年報 非文字資料研究』）への寄稿について

人類文化の研究は、人間それ自身と人間が織り成す社会を研究することを目的とするが、その研究は文字で表現された資料を主な対象として行われてきた。しかし、人間の活動とその結果生み出されるものは、文字で記録されたものに止まらない。絵画・写真・映画・建築・民具・音声などの形で記録されたり、地形や景観あるいは人間の身体それ自身に刻み込まれたりもする。さらに、匂い・しぐさ・味覚・感触など「記録化」することが難しいものも、人類文化を構成する大事な要素である。

非文字資料研究センターは、そのような文字以外の記録及び文字では表現されにくい人間の諸活動を「非文字資料」として体系化し、それを研究する新しい方法を開発し、より包括的な人間と文化の理解にいたることを目指している。21世紀 COE プログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」（2003－2007年度）以来、わたしたちは、その目的を達成するために〈図像〉〈身体技法〉〈環境・景観〉のなかから研究課題を絞り込み、共同研究を展開してきた。この共同研究は、歴史学・民俗学はもとより、文化人類学、比較文化論、美術史、建築史、災害史、情報科学などを専門とする内外の研究者によって支えられてきた。

このように多様な学問的広がりをもつ非文字資料は、世界各国の地域文化の諸相を具体的かつ可視的に示す絶好の資料であるとともに、資料自体が多層的な時代・地域において蓄積されてきた背景をもっているため、研究方法としても比較歴史的な視点を求めるものであり、ひいては、人類文化研究の総合的・学際的な発展の可能性を有している。

しかし、研究資料の分析指標の設定、意味の解釈という困難な作業には、研究概念と成果の普遍性が求められる。また世界共通の標準的・普遍的な研究資料の資料化・体系化を行うには、世界各地の関連学問分野の研究者による相互検証が不可欠である。本センターの研究活動においても、関係研究者との共同作業を必要としている。

『非文字資料研究』は、世界の各地域において活躍されている非文字資料研究者からの寄稿を歓迎し、本誌が多分野にわたる研究者相互の学問的遭遇の場として発展するとともに、人類文化の豊かな研究に寄与することを期待する。

2016年度より誌名を『年報 非文字資料研究』から『非文字資料研究』へと変更し、年2回の刊行となりました。寄稿をご希望の方は、当センターのホームページをご覧ください。執筆要項等の詳細をご確認ください。

エントリー募集期間：前期 1月～3月 後期 7月～9月

原稿締め切り：前期 5月末 後期 11月末

※原稿ご提出後、査読があります。

エントリー用紙：当センターのホームページよりダウンロードしてください。

『非文字資料研究』執筆要項：当センターのホームページよりご確認ください。

エントリーシートの提出・お問い合わせ先：非文字資料研究センター

E-mail: himoji-info@kanagawa-u.ac.jp

ホームページ：<http://himoji.kanagawa-u.ac.jp/>

運営委員会

2016年度

- 第4回 2016年7月29日 センター研究員人事について（戦時下メディア班）、海外提携機関からの招聘研究員について、海外提携機関への派遣研究員について
- 第5回 9月28日 第四期共同研究事業体制に関するアンケート調査について、第三期研究成果、各班進捗状況と今後の見通しについて、2015年度 奨励研究成果論文査読結果について、海外提携機関への派遣研究員について、『マルチ言語版絵引』について、共同研究班に所属しない研究員のあり方について、2017年度予算案策定スケジュールについて
- 第6回 10月18日 2017年度非文字資料研究センター予算編成について(案)、2016年度非文字資料研究センター予算残高見通しに基づく執行計画(案)、2016年度海外提携機関との派遣・招聘事業について、刊行物の進捗状況について、招聘研究員 研究成果発表会の日程について、共同研究班に所属しない研究員のあり方について
- 第7回 11月23日 戦時下メディア班、商業出版（勉誠出版）企画について、国際シンポジウム企画、ホームページリニューアル
- 第8回 2017年1月25日 第四期研究期間 センター研究員人事について、2017年度奨励研究募集要項(案)について、『非文字資料研究』執筆要項（改定案）について、（含：査読に関する申し合わせ、エントリーシート）、2017年度海外提携機関への派遣事業募集要項(案)について、2017年度海外提携機関からの招聘事業実施要項(案)について、『非文字資料研究叢書』に関する申し合わせ(案)について、勉誠出版から戦時下メディア班への商業出版企画の打診について、2016年度センター公開研究会企画について

研究員会議

2016年度

- 第2回 2016年9月28日 第四期共同研究事業体制に関するアンケート調査について、第三期研究成果、各班進捗状況と今後の見通しについて、『マルチ言語版絵引』について、同研究班に所属しない研究員のあり方について
- 第3回 10月19日 2017年度非文字資料研究センター予算編成について(案)、2016年度非文字資料研究センター予算残高見通しに基づく執行計画(案)、共同研究班に所属しない研究員のあり方について
- 第4回 2017年1月25日 第四期研究期間 センター研究員人事について、2017年度奨励研究募集要項(案)について、『非文字資料研究』執筆要項（改定案）について、（含：査読に関する申し合わせ、エントリーシート）、2017年度海外提携機関への派遣事業募集要項(案)について、2017年度海外提携機関からの招聘事業実施要項(案)について、『非文字資料研究叢書』に関する申し合わせ(案)について、勉誠出版から戦時下メディア班への商業出版企画の打診について、2016年度センター公開研究会企画について

研究会

研究班

2016年度

海外神社跡地のその後 12月17日

中国・朝鮮の旧日本租界研究 7月15日、9月23日、12月16日

戦時下日本の大衆メディア研究 8月28日、2017年1月21日

現地調査

調査テーマ	日程	場所	調査メンバー
汽水の生活環境史	7/22-25	高知	常光徹
汽水の生活環境史	8/2-4	大崎市	山本志乃・川島秀一・常光徹・安室知
汽水の生活環境史	9/7-10	香川	松田睦彦
汽水の生活環境史	12/15-18	鹿児島	安室知
船上生活者の実態とその変容に関する研究 －横浜・瀬戸内海・長崎の海域を中心として－	8/4	二宮	田上繁・松本和樹
船上生活者の実態とその変容に関する研究 －横浜・瀬戸内海・長崎の海域を中心として－	8/24-29	北九州 小倉	田上繁・松本和樹
船上生活者の実態とその変容に関する研究 －横浜・瀬戸内海・長崎の海域を中心として－	12/3-5	尾道 北九州	田上繁・内田青蔵・松本和樹
戦時下日本の大衆メディア研究	11/4-7	台湾	松本和樹・安田常雄・大串潤児・森山優・鈴木一史・小山亮
戦時下日本の大衆メディア研究	1/5-9	北海道	大串潤児

編集後記

本号も、二つの国際シンポジウムの報告と、絵引出版を記念した公開研究会の報告など、非文字資料研究のさかんな活動をお伝えしています。これからも、とくに国際的な学術交流の状況をお伝えし、紙上で報告していく予定です。また研究会報告に続いては、新たに研究員となられた方々の研究エッセイを掲載させていただきました。教員や研究員は、ふだんなかなか互いの研究状況については話すことができないのが現状ですが、このような紹介のページはますます充実させていきたいと考えています。このニューズレターが、研究班間のコミュニケーション、そして大学間の交流のネットワークを示す媒体となることを、願ってやみません。(K.K)

表紙紹介

表紙の写真は、上が中国・杭州の拱宸橋、下がカナダ・バンクーバーの浜辺で、今号で報告されている、浙江工商大学とブリティッシュコロンビア大学での国際シンポジウムの折に撮影されたものです。前者はシンポジウム後、現地の先生方の協力のもと杭州に存在した日本租界地跡を調査した際に、渡った名橋です。北京にまでつながっている大運河は、2015年に世界遺産にも登録されました。後者は背景に大都市を望みながら、子供たちの遊ぶのどかな情景が印象的です。学術交流のしるしとも思い出ともなる、美しい水辺の風景をお届けできれば幸いです。(K.K)